

家屋

んど數千年以前のものに屬し、現在新疆人等の、到底夢想にも企及すべからざる所なりと信ず。

又家屋の建造法を觀るに、一戸毎に土煉瓦の厚壁を以て圍み、窓牖を少くして寒暑を凌ぐに適せしめ、且つ盜難を防ぐに便し、内部は厚壁中に、方形彈形の棚を造り、屋下には避暑室を設け、而も其の周圍及床の雜作の如き、能く濕氣を防止するの設備ありて、自ら建築の學理に合へるに似たり。

其他園囿の築造、植木、配石、池苑等にして、渠水工事と同時代の設備に係り、何れも巧妙を極むるもの實に尠からざるなり。

又和闐に於ける玉石製造の如き、往昔使用せし彈丸の如き、今日に遺れる物を觀るに一として嘆賞に値せざるは無く、殊に和闐地方の養蠶術の如きは、最初支那より傳へられたりとするも、當時の狀況を想像すれば、到底悉く傳習せられたるに非ずして、全く傳來後の發達に係りしや明かなり。且つ絹布を始め、段通、毛織若くは毛氈等の製織中、彼の段通の如きは、精巧美麗、共に之を現今歐米文明國の製品に比して決して遜色なきを認む。

養蠶術と
製織

園囿